

2014年9月26日(金)

「秋告げ菊」で地域活性化

南足柄 古屋さん変異種見つけ品種登録

南足柄市塚原に住む古屋富雄さんの見つけた「ボサ菊」の変異種が、このほど農林水産省からの認定を経て新種として品種登録された。従来のキクと比べ早く咲き、開花期間が長いなどの特徴。品種名は「TOMIO-59」。

8月下旬に咲いて長持ち



新種として品種登録された「秋告げ菊」と古屋さん。黄色い花が咲いている

古屋さんによると、変異種を見つけたのは5年前。自宅で育てていた数百株の菊を、自身が代表を務める「ユートピア農園」に移植する作業をしていた際、目に入った。株の中に、本来より1カ月以上も早く開花している花があったという。珍しく思い、この変異種を挿し木にして増殖。3年間にわたって調べた結果、毎年早い時期に花を咲かせること

とが分かり、2012年に登録を申請した。既存の対象品種との区別性が認められ、今月に入り正式に品種登録された。特徴は、例年10月下旬ごろから見ごろを迎える通常の菊より1カ月以上も早く、8月下旬から開花する点。開花期間は1カ月以上(普通は約2週間)続き、より鮮やかな黄色

の花を咲かせる。また、花の直径は約3センチ。サル菊のように円形状に成長する。秋が始まる9月の頭に花を咲かせることから、「秋告げ菊」と自ら命名。季節の到来を知らせる花として広まればいいと、古屋さんは期待を寄せている。来年以降は同農園に植栽して公開し、多くの人に観賞してもらえるようにする予定。

古屋さんは自宅近くの農園を拠点に、花と農業による地域活性化に取り組む。過去にもソメイヨシノより早咲きの桜「春めき」を登録。この並木が続く同

市狩野の狩川土手沿いは、花見スポットとして多くの人が訪れる。「季節を先取りする花は多くの人を呼び寄せ、地域を活性化させる大きな力になる」と古屋さん。同農園での事例をモデルケースに全国へ発信し、各地の活性化に貢献できればと意気込みを話す。

また、「花が咲くのが早く長持ちし、色もきれいで購入者への魅力もある。消費不足で低迷する花き業界も元気にできれば」と語った。